



各 位

会 社 名 株式会社フェニックスバイオ  
 代表者名 代表取締役 島田 卓  
 (コード番号: 6190 東証グロース)  
 問 合 せ 先 専務取締役管理部長 田村 康弘  
 (TEL 082-431-0016)

**営業外収益（為替差益）、特別損失（減損損失）の計上及び  
 通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ**

当社は、2022年3月期において、営業外収益（為替差益）、特別損失（減損損失）を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、2021年11月12日に公表いたしました2022年3月期の業績予想値と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

1. 営業外収益（為替差益）の計上

2022年3月期第3四半期連結累計期間において、為替差益8,474千円を計上しておりましたが、外国為替相場の変動に伴い、2022年3月期第4四半期連結会計期間において、為替差益14,855千円を計上いたしました。

この結果、2022年3月期において為替差益23,330千円を営業外収益で計上いたしました。これは主として、当社保有の外貨建債権を2022年3月末時点の為替レートで評価替えを行ったことにより発生した評価益であります。

2. 特別損失（減損損失）の計上

子会社であるKMT Hepatech, Inc. は、当社グループが注力する北米市場でのPXBマウス生産施設として、技術移転や人材育成と並行して2020年に設備投資を実施いたしました。ヒトの肝臓を持つPXBマウスは、高度な移植技術に加えて最適な飼育環境を整えることで、高品質で安定した生産が可能となりますが、生産施設や入手できる原材料が国内と異なる同社での生産数は、歩留率にばらつきが生じ低水準で推移しておりました。様々な検討を重ねるなかで、独自の工夫を加えた生産方法により安定生産の目途は立ちつつあるものの生産実績は当初計画を大きく下回る状況にあります。2022年3月期第4四半期連結会計期間において、将来キャッシュ・フローによる回収可能性を慎重に評価した結果、同社の固定資産の帳簿価額265,027千円を減損損失として計上いたしました。

3. 2022年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異  
 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想値(A)	1,300	△155	△156	△157	△47.69
今回実績(B)	1,324	△167	△127	△387	△117.50
増減額(B-A)	24	△12	28	△230	—
増減率(%)	1.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期)	1,013	△276	△223	△238	△73.60

#### 4. 差異の理由

2022年3月期の連結業績につきましては、売上高はほぼ計画値どおりとなりましたが、原材料価格の高騰による生産コストの増加や次期以降の販売強化を見据えた米国子会社におけるマーケティング費用の発生等により、営業利益は計画値を若干下回りました。

経常利益については、為替差益やイノベーション人材等育成事業補助金の計上等により計画値を上回りましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は減損損失の計上により、計画値を大きく下回ることとなりました。

以 上